

健康と病いの語りデータベース

Database of Individual Patient Experiences

DIPEX-Japan 設立 **15** 周年 記念シンポジウム

～医療者・社会学者・当事者の視点から～

今、改めて問う。

「病いの語り」から 何を学ぶのか？

登壇者（五十音・敬称略）

射場典子（聖路加国際大学、DIPEX-Japan）

熊谷晋一郎（東京大学先端科学技術研究センター）

鈴木智之（法政大学 社会学部 社会学科）

孫大輔（鳥取大学医学部 地域医療学講座）

長坂由佳（キャンライフ、DIPEX-Japan）

水野光（錦秀会インフュージョンクリニック、DIPEX-Japan）

司会 瀬戸山陽子（東京医科大学、DIPEX-Japan）

お問い合わせ：office@dipex-j.org

2022年10月29日（土）13：30～17：20（ハイブリッド形式）

現地会場：聖路加国際大学（定員 100 名）

本館講堂アリス・C・セントジョンメモリアルホール

現地会場へのアクセス

<築地駅>東京メトロ日比谷線築地駅3番出口
または4番出口、デニーズと東京トヨベットの
間を直進（徒歩 3 分）

<新富町駅>東京メトロ有楽町線 新富町駅
6番出口、一つ目の道を右折し直進（徒歩 5 分）

オンライン配信：Zoom（定員 60 名）

申込方法：事前登録制 Peatix チケット
（チケット代：1000 円）

申込期限：10月27日（木）17：00

お申込みは [こちら](#) から



感染症対策にご協力ください



主催：認定 NPO 法人 健康と病いの語りデータベース・ジャパン

健康と病いの語り <https://www.dipex-j.org/>



—病いの物語は、互いに向き合っている者同士の相互作用を必要とする。

語り手の苦しんでいる身体そのものが証言であり、その証言を受け取るためには、

聞き手が潜在的にせよ苦しむことのできる身体としてそこにいなければならない—

アーサー・フランク（「傷ついた物語の語り手～身体・病い・倫理」鈴木智之訳）

設立 15 周年を迎えて

認定 NPO 法人健康と病いの語りディベックス・ジャパンは、2022 年に設立 15 周年を迎えました。

この 15 年の間に「患者中心の医療」や「患者参画」、「ナラティブ・ベイスド・メディスン」といった言葉が広く使われるようになり、

患者の声、当事者の思いに寄り添うことを目指す様々な動きが広がってきました。

特にコロナ禍で医療系の学生が患者と直接触れ合う機会が減ったここ数年、「健康と病いの語り」は医療者教育でも盛んに用いられるようになっていきます。

このような中で、改めて今、考えたい問いがあります。

当事者の「語り」を医療者教育に活用するとはどういうことなのか？

地域に出て人々の語りに触れながら医療を考える医師、

理論社会学の立場から病いの語りに向き合う研究者、

自らを語ることで社会を変えていく当事者研究の研究者、

さらにはディベックスのインタビューを受けた当事者やそのインタビューを担当した看護教員など、

さまざまな立場の方とともに、

私たちが「語り」から何を学べるのか、議論を深めていきたいと思えます。

皆様、貴重な機会をお見逃しなく！

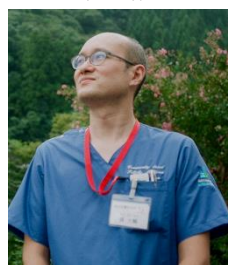
熊谷晋一郎



鈴木智之



孫大輔



長坂由佳

